共創インターンシップ事業
～星大･星短生のためのオーダーメイド型インターンシッププログラム～

団体名●神崎ゼミナール／代表者名●神崎淳子（経済学部経営学科･准教授）

はじめに

中小企業家同友会の共同求人委員会にご協力いただき、神崎ゼミの学生有志が金沢星稜大学の学生にむけたオーダーメイド型のインターンシッププログラムの作成に取り組んだ。このプログラムは、参加企業とともにインターンシップや地域の企業活動に関心を持つ星大・星生が本当に知りたい情報を星大生自身が作るプログラムである。

活動内容

協力企業3社とともに、インターンシッププログラムづくりのための全体ワークショップ3日間を実施したのち、個別企業ごとのプログラム作りをおこなった。

それぞれの企業のつよみ、また PR ポイントについてインタビューを行い、学生視点からその魅力を伝えるために、以下のような企画を考えた。

企業①「挑戦」をキーワードに、経営者の挑戦に対する考え方、参加者の挑戦経験の共有、働きながら「挑戦する」ことについての LIVE インタビューを行った。

企業②「働きやすさ」をキーワードに、働きやすさについての学生のイメージ共有、社員インタビュー動画、人事担当者への質問タイム

企業③「風通しのよさ」をキーワードに、企業の事業内容や雰囲気を伝える動画の作成、経営者・社会人の先輩に何でも聞ける就職活動相談会、

以上のようなコンテンツを学生が考え、実際に運営まで企業担当者とともに行った。

これらのコンテンツを作る過程で、企画メンバーは複数回の企業訪問をおこなったり、担当者との個別の打ち合わせを行ったり、自主的な話し合いの機会を持ったりしている。

成果、結果の考察

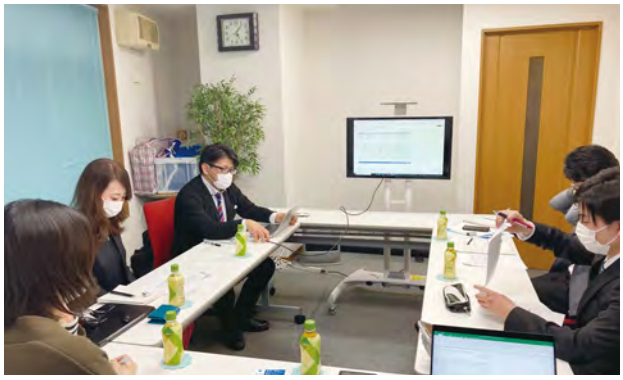
プログラム参加学生にとっては、インターンシッププログラムを作る、というだけではなく、企業との連携により実践的な事業運営の方法を経験することができた。オンラインという制約のもとで学生と企業の両社のニーズをどれだけ組み込むことができるか、試行錯誤を重ね自分の持つ力の一歩先を目指す貴重な経験となった。

このような経験を通して、学生は社会に出ても必要とされる、自分で考え、企画し、実行できる能力やチームで協力しあう力を身に付けることができたと考える。

今後の課題、展望

近年、ますますインターンシップの重要性が 強調されてきている中で、企業が伝えたい情報を受け取るだけではなく、自分たちで企業の情報の中から良い点を見つけ、企業に関心を持つ他の学生に伝えるためのコンテンツづくりに取り組んだ。大学生自身が主導的に研修内容の運営にかかわったことが、従来のインターンシップとは異なる点である。この経験から、産学連携型の実践的な学生の学びやそれらを通じたキャリア思考の形成の機会を得ることができたと考える。

今後は、企画したインターンシッププログラムが参加学生にとってどれだけ満足度が得られるものであったか、事前に評価項目を設定し、各プログラム間で成果を競うなど、ゲーム性を取り入れ、学生が取り組んでみたいと思うプログラムにするなどの工夫が考えられる。



協力企業との企画会議風景